

# アクリルタワシの編み方

編みやすい! 洗やすい! 乾きやすい! アクリルタワシを紹介します。



## 用意するもの

- アクリル100%の毛糸
- かぎ針(7号)
- ※毛糸1玉から3~4枚のタワシが作れます。

- 1 最初の目を作り、引っ張って目を引き締めます。
- 2 鎖編みで25~27目の作り目を作ります。
- 3 ②の作り目が出来たら、作り目1目の裏山に針を通します。
- 4 図のように針をかけて引き抜きます。
- 5 もう一度針に糸をかけて2目を同時に引き抜く。
- 6 ③~⑤を繰り返して、1段目を編み終わったところでひっくり返す。
- 7 **いよいよ2段目!** 立ち上がりの鎖目を1目編みする。
- 8 2段目の細編み(③~⑤)を進める。
- 9 2段目の編み終わりの最後は、前段の細編みの頭2本をすくって1目編みます。
- 10 再びひっくり返して同じように3段、4段と編みましょう。

8~9段編めば手頃な大きさになるので最後に糸を引き抜いて**できあがり!**

作って! 使って! エコライフ!



# 奈良くらし手帳

生活に密着した暮らしに役立つ情報をわかりやすくご紹介。

vol. 19

## アクリルタワシで川をきれいに!

アクリルタワシは、洗いの物に表面にフィットして優れた拭き性を発揮します。

手にも環境にもやさしい! 洗剤なしでも食器にカビが!



問 県河川課 ☎0742-27-7504 ☎0742-22-1399

## 東大寺大仏殿の鉄骨トラス

奈良 ゆかり探訪 vol.22

知ればその国の人に話したくなる、外国とのゆかりをご紹介します。

明治期の東大寺大仏殿の修復では、当時製鉄業がさかんであった英国の SHELTON STEEL 社の製の鉄骨トラス(鉄骨構造のうち、小さな三角形を多数組み合わせさせた構造)が使われ、今も大屋根を支えています。鉄骨トラスを用いた構造の採用は、当時の先端の技術を駆使したもので新しい発想に基づいていました。東大寺の大仏殿は、1903年(明治36年)から11年にわたり大修理が行われました。その要点は、軸部構造材の補強と構造の強化と屋根荷重の削減でした。

その中で上層小屋組中の2本の松の大梁(長さ23m、直径1.3m)は中央で50cmほどたわんでいました。これを補強する構造材として大梁下端に高さ5mの大型トラスを添わせ、その両端を内陣柱に組み込んだ鉄骨にリベットまたはボルトで固定しました。さらに桁行方向にも振れ止めを兼ねた小型のトラスを架け渡して大梁の重量とこれにかかる上層屋根荷重を内陣柱に分散・伝達させる方法が取られました。

鉄骨構造の採用は、大仏殿はもちろん、日本の木造伝統的建造物の歴史の中で初めてのことです。その活用には細心の注意をもってあり、外側より見える部分での使用をできる限り控え、鋼材を木部の中に包み込むなどの方法がとられています。

世界最大級の木造建築の修復に鋼材やセメントといった当時の先端材料が使われ、今に伝わっていることから、伝統文化を守るために、新しいものを受け入れてきた先人の苦勞と知恵が感じられます。



鉄骨トラス(撮影・箱崎和久)

問 県観光プロモーション課 ☎0742-27-8051 ☎0742-27-3510

奈良

イギリス